

令和2年度 第3回学校運営協議会

日時：令和3年2月19日（金） 15：00～17：00

場所：大阪府立中央聴覚支援学校 高等部4階会議室

1 開会

2 学校長挨拶

3 学校の様子について

幼小中高各学部及び寄宿舎の様子について報告

4 議事

①令和2年度 学校教育自己診断（報告）について 学校長より説明

<委員からの主な意見・質問及び回答>

- ・アンケートの回収率について、保護者よりも教員の回収率が低いということについては、業務の多忙や回収時期の問題ということもあるとは思いますが、是非改善してほしい。
- ・教員同士の話し合いが減ったという数値に関してはコロナ感染拡大の影響が強いと考えられるが、情報共有のシステムはどのように機能しているか。
→校内委員会を定期的に行って情報共有しているが、部を跨いだ詳細な成育歴などの共有までには至っていない。
- ・人権尊重の教育について、研修会などどのような計画があるか。
- ・教員の研修とともに、子ども自身の人権感覚をどう育てるかも課題。就労後に、聴覚障がい者以外のいろいろな人とかかわる中で、相手に対する理解が足りずに苦勞するということが起こっている。
→令和3年度の学校経営計画の安全安心な学校づくりのところで、子どもたちの人権尊重の教育・教員の人権意識の向上ということをテーマにしているので、さらに具体的な計画をたてて、今後とも取り組んでいきたい。

②令和2年度 学校経営計画及び学校評価（最終報告）について 学校長より説明

<委員からの主な意見・質問及び回答>

- ・わかりやすい授業とはなにか。機器の使用などだけでなく、先生が何を子どもたちに伝えたいか、ということがベースである。教科を越え、経験年数の長短にかかわらず一緒に研修をすることが必要ではないか。
- ・研究と研修の両輪が必要。教員の異動が多い中、積み上げにくいこともあるかもしれないが、まず子どもの実態をしっかりと把握してどの子もわかる授業に取り組んでほしい。
→各部の研究・研修の状況について部主事より報告
幼稚部…各学年で研究保育を行った。ビデオ撮影により全員が研修に参加。
小学部…英語教育、プログラミング学習などに外部人材を活用しながら教員も研修。
中学部…グループ学習時に教員がペアで入り、互いの授業を見ることができる。
高等部…初任者・2年目・10年目など節目の研修は教科を越えて参加。生活応用コースは基本的にチームティーチングで対応している。

- ・聴覚支援のセンター校の役割について、校内にはどのように理解や周知をはかっているか。
→外部支援へは担当分掌の教員だけが出向くのではなく、教員全体へのアンケートにより人材バンクを作り、専門性が活かせるようにしている。
- ・本校は早くから通級制度を作り、地域の難聴の子どもたちのことも大切にしてきた経緯がある。ろう難聴の子どもたちの交流の受け皿となって連帯感や安心感をもたらし、そのことが聴覚支援学校の専門性と認められてきたのではないか。センター的役割を是非守り続けてほしい。
- ・キャリア教育プログラムについては、家庭との連携が重要であるので可視化し、評価できるようにお願いしたい。

③令和3年度 学校経営計画及び学校評価（案）について 学校長より説明

<委員からの主な意見・質問及び回答>

- ・本校は幼稚部から高等部までである。先輩を見て育つ、後輩を見守るというように、学年学部を越えた交流を活発に取り組んでほしい。保護者も、PTA活動を通して他校との交流をしていきたい。
- ・卒業後の課題としてもレジリエンス、困難に打ち勝つ力・問題を解決していく力を高めることがある。「周りの人が理解してくれない」と言って、職場定着やコミュニケーションに課題がでてくる。これからの子どもたちについても考えていきたい。
- ・自分がきこえにくいことを理解し、周りに説明できる力が大切。そして自尊感情、自己有用感が育つようなかわりを先生方をお願いしたい。
- ・学校や教員の負担が増える一方である。スクールカウンセラー・スクールロイヤー・スクールソーシャルワーカーなどさまざまな外部資源があるので、活用してほしい。
- ・地域では、幼稚園や小学校などと連携し、PTAや学校の教職員のみなさんで安全安心なあったかいまちづくりに取り組んでいる。支援学校も地域校としてぜひ集会にも参加してほしい。

5 事務局より連絡

6 閉会